opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 12

オプス・デイが生まれた当時のスペイン社会には、反カトリック的な雰囲気が満ちていました。

2023/06/21

## 過去の記事はこちらから

18世紀にフランスで啓蒙思想と呼ばれる考え方が知識階級の間に広がります。この思想は、人間理性だけに信頼するなら人類は無限の進歩をする、この進歩を妨げる最大の敵がカ

トリック教会だと主張しました。この考えに従ったフランス革命は激しくカトリック教会を迫害しましたが、教会は生き残りました。しかし、啓蒙思想は欧米の知識人階級に徐々に浸透していき、19世紀の初めにはスペインにも入ってきました。

19世紀の後半には、これとは別に社 会主義(マルクス主義)の考えも広 がりました。この思想は、社会の不 平等の主要な原因は宗教にあると し、平等な社会を作るためにはまず キリスト教を抹殺しなければいけな いと信じました。この考えに従って 1917年に革命を成功させたロシア共 産党はロシア正教の教会を残酷きわ まる仕方で弾圧し、同じ政策を世界 に広めようとしていました。スペイ ンも例外ではなく、社会主義者の 人々は産業の発展とともに増えてき た労働者の間に、教会に対する憎悪 を植え付けていきました。この啓蒙 思想家と社会主義者たちはそれぞれ

政党を作り政治の世界に進出し、20世紀になるとスペインでも社会主義や共産主義の政党が勢力を伸ばしていました。

1931年に選挙が行われました。反カトリックの政党はどれも過半数とはほど遠い議席しか獲得しませんで、はほが、右派が分裂していたを握したが、右派が分裂して政権を作ることではといるとでは、当まりは共和政が始ました。まではは共和政が始ました。もり出しず、教会の抗議にもかから追しましまがは、参変えて、教会の財産を没収、を教育にもから追放とでです。

また巷では、反カトリックの組織に 扇動された民衆が教会や修道院を焼き討ちするということも始まりました。警察がそのような暴行を傍観したため、このような野蛮な行為が全国の主要都市に広がっていきまし た。選挙の興奮がまださめやらぬある日、聖ホセマリアの病人援護した。 聖ホセマリアの病人援護した。 教会にも暴徒が集まってるごと者のにもまたに安置されてうと考えている者のです。 がは教会に避難させい、革命の中でもいて行ったのです。 はながいて行ったのです。まずでいるのです。 はこのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-12/(2025/11/21)